

ワークショップ進行シート

作成日：2016年 07月 13日

作成者：小原 海

タイトル：肌色って何色？～人類のつぼ、アメリカの差別問題～

ファシリテーター（グループ）：肌色って何色？チーム

1：本ワークショップの要旨

まず、私たちが「肌色」でイメージする色が、実は世界に共通する「肌色」でないことに気付いてもらう。そして、私たちが抱くこのイメージが、一部の人々の価値観を一般化した固定観念であることに気付いてもらうために、アメリカにおける人種差別を例として取り上げる。これを踏まえ、見た目が異なることは当たり前であるということを感じてもらう。

2：本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)

黒人差別を中心に、差別問題への理解を深め、現在でも完全には解決されていない問題であることに気付いてもらう。また、日本では感じにくい事例のため、国際社会へ目を向ける一歩としたい。

特に日本では、歴史的に異質な少数者に対して不寛容な傾向にある。しかし、世界では多種多様な人種や民族が共存し、社会を構築しているということを理解してもらい、身近な差別やいじめをはじめとする問題を解決する契機とし、個を尊重できることを目的とする。また、その解決策を模索できるようになることを目指す。

3：本トピックをとりあげる理由

「黒人差別」という国際社会の中でも長年注目されてきたテーマを、子どもたちに分かりやすく学んでもらいたい。これからの日本が国際社会のなかで、先進国のひとつとして世界に貢献していくためにも、日本のこれからの担う子どもたちに、こうした問題に目を向けて欲しい。

また、その差別の根底にあった意識は、実はみんなが持っている意識だ、ということに気づき、感じてもらう、みんなが違う「個」であるということを理解してもらう。

4 : 活動過程

(使用時間 : 100分 参加人数 : 1クラス約40名程度まで、2クラス以上可能)

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・説明・動きなど	ねらい	使用する教材・備品	予想される反応・その他、注意事項
自己紹介(05分)		進行 MFT, 総括 OFT のみグループのなかで生徒と大学生が簡単な挨拶をする。	緊張の緩和など	ネームカード	
アイスブレイク(15分)	「アイスブレイク」	対象学年に応じて内容を柔軟に変更します。 また、学校側の要望に応えながら、生徒との緊張をほぐす時間に充てます。	参加生徒と場の雰囲気をほぐす。	適宜柔軟に対応	
導入 : 起 (10分)	「色当てクイズ」	写真で見せるものが、一般に何色であるかを答えてもらう。 「人間の肌の色は何色でしょうか？」 りんご/信号/太陽/肌 クイズとあるが、実際の活動はクイズ形式ではなく、生徒との確認作業である。	一般に認識されている色と実際の色が、異なっていることに気付いてもらう。 色を認識するとき、文化や環境がその色を決定付けることに、気付いてもらう。	図表 写真 挿絵	「人間の肌の色ははだいろだよ。」 「いや、白だよ、茶色だよ。」 「黒の人もあるんじゃないかな？」

展開 : 承 (30分)	「紙飛行機を飛ばそう」 (20分)	紙飛行機を作る材料と飛ばす環境に差をつけて、差別を体験してもらおう。 材料が折紙チーム ゴール：近距離 材料が新聞紙チーム ゴール：遠距離	異なる境遇や環境の理不尽さ、差別される気持ちを、具体的に体験してもらおう。	折紙 新聞紙 ゴールテープ	「折紙チームはいいなあ。」 「しわしわの新聞紙で飛ばせるわけないよ。」 「ゴールが遠くてこれじゃ届かないよ。」
	「劇」 (10分)	舞台はアメリカ、約300年前の黒人奴隷貿易から、現在に至るまでの黒人差別の様子を見てもらう。	歴史的事実と経緯を確認してもらい、自身で考える契機にする。	図表 写真 挿絵	「黒人の人々は無理矢理アメリカに連れてこられたんだ。」 「白人は優遇されていたんだな。」
休憩 (05分)	休憩	大学生と生徒の自由な時間に充てる。 FT は生徒の様子を伺う。 次ワークの準備	ブレイクタイム	※小学校低学年対象時には、画用紙、絵具と水を用意する。	
発展 : 転 (20分)	「差別って何だろう？」	黒人差別以外の差別についても、解説を加えて知ってもらう。 ※小学校低学年対象時には、グループのなかでお互いに肌の色を作るワークを行う。 できた色を画用紙に塗って色を比べ、多様性を見たり感じたりしてもらおう。	差別の体系があらゆる範囲を包括することに気付いてもらう。	図表 写真 ※画用紙、絵具、水	「差別にも色々あるんだな。」 「どうして差別が起きてしまうのだろうか。」

<p>まとめ : 結 (15分)</p>	<p>「解決するためには? ~ 模索してみよう~」</p>	<p>自分が考える具体的な解決策を書き出してみよう。</p> <p>箇条書き等を問わず、各々が自由に書き出す。</p> <p>いくつかのグループに発表してもらい、全体共有をする。</p> <p>※状況に応じ、FTがまとめて終末とする場合も可。</p>	<p>各々の内にある、「自分ならこうしたい!」という思いを可視化して、全体で共有できるようにする。</p> <p>自分の意見だけでなく、他者の意見を聞くことで、多様な視点を持つことができるようにする。</p>	<p>画用紙 マジックペン</p>	<p>IFTの支援が重要になってくる。</p> <p>「国や世界の代表が話し合う必要があるんじゃないかな?」</p>
--------------------------	-------------------------------	---	--	-----------------------	--

5：会場のセッティング

会場の設備に合わせて柔軟に対応させていただきます。机や椅子等の設備が揃っていることが望ましいですが、大人数の生徒でワークショップを行う場合、机や椅子を撤去して行うことも可能です。

小道具を使用しますので、2,3個の机と椅子が必要です。また、パワーポイントを使いますので、スクリーン若しくは外部機器が接続可能なテレビが必須です。外部USBの接続が可能なPCが無い場合は、事前打合せの際にお申し出下さい。

6：使用する教材

- ・パワーポイントでの図表など
- ・写真などの映像資料
- ・画用紙とマジックペン
- ・折紙
- ・新聞紙
- ・ゴールテープ
- ・ストップウォッチ

7：参考にした資料

- ・川島浩平『現代アメリカを知るための60章』明石書店、1998年
- ・富田虎男『アメリカの歴史を知るための60章』明石書店、2000年
- ・本田創造『アメリカ黒人の歴史 新版』岩波書店、2006年
- ・ジェームズ・M・バーダマン『黒人差別とアメリカ公民権運動』集英社、2007年
- ・アンソニー・W・マークス『黒人差別と国民国家』春風社、2007年
- ・安田浩一『ルポ 差別と貧困の外国人労働者』光文社、2010年
- ・国際人権法学会 編『国際人権 No. 14-24』国際人権法学会、2013年
- ・新潟県人権同和センター『政治が差別をつくった』新潟印刷、2015年

8：その他

差別に対する明確な認識を持たない生徒に対し、このテーマを取り扱う際は、生徒が差別をしているという偏見を持つことなく、また、このワークショップで差別に対する正しい認識が持てるような、そんなワークショップを行います。

黒人差別という限定的な差別だけでなく、身の回りで起こるあらゆる広義的な差別を取り扱い、ただ一方的な教授ではなく、子どもたちと一緒に歩いていく時間を持ちたいと願います。